

第5回 5月24日の講義内容

● § 3-1. 社会調査の設計

- 設計の前に
- 調査テーマの設定
- 問題意識の明確化
- 作業仮説の定式化(検証タイプ)
- 現象の定式化(発見タイプ)
- 調査対象の確定
- 調査方法の決定
- まとめ

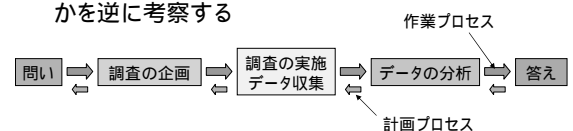
5/24/06

1

設計の前に

● 正順と逆順のプロセス

- 調査の出発点である「問い」と、到達点であるそれに対する「考えられる答え」の両方を用意
- 出発点から到達点までの経路を考察
- 「考えられる答え」を得るにはどのような方法が必要かを逆に考察する



5/24/06

2

調査テーマの設定

- 調査テーマの設定
 - まず、問題意識ありき。
 - 何が問題なのか、何を知りたいのか、を明確にする。
- 目的は調査結果の認識、解釈にある
 - (注)調査すること自体が目的ではない。
- 調査票調査だけが唯一の方法ではない
 - 調査票調査が妥当なケースは、主たる関心が集団の(平均的な)性質にある場合

5/24/06

3

「問い」と「考えられる答え」のリストアップ

- 「問い」に対応する「考えられる答え」
question and its plausible answer
 - 「考えられる答え」は一つとは限らない
(複数あってもよい)
 - 「問い」と「答え」を繋ぐ論理を考える
⇒ 説明モデル (= 基本仮説) の探索・提示

5/24/06

4

さまざまな問い

- 記述(how)のための問い
 - 即自的関心
調べること自身が目的
 - 理論的関心
- 説明(why)のための問い
 - データの理論的説明
データを説明する理論を構築
 - データによる説明
「事実を理論で説明し、理論をデータで例証する」

5/24/06

5

問題意識の明確化

- 基本仮説を作業仮説(仮のモデル)に移し替えるプロセス。
 - 同様の問題を扱った先行研究のレビュー
 - (検証タイプの調査)問題を把握する枠組(理論モデル)・世界観の選択
 - (発見タイプの調査)問題と関連する諸現象の整理・分類
 - 問題の整理 図式化

5/24/06

6

作業仮説の定式化(検証タイプ)

- 理論モデルと操作モデルの擦りあわせ。
(翻訳作業)
- 操作モデルを検証可能な形に整理・書替え。
(モデルの具体化)
- 操作モデル相互間の関係を整理
- 操作モデル 質問文 対応づけ

5/24/06

7

現象の定式化(発見タイプ)

- 質問文 操作モデル 対応づけ
- 操作モデル相互間の関係を整理
- 操作モデルから帰納的に一般化される言明(モデル)を提示。
- 一般化モデルから推測される理論モデルを提示。

5/24/06

8

調査対象の確定

- 属性、特性を画定
 - 年齢、性別、職業、学歴、地域、等々
- 比較対象群(controlled group)の設定
 - 作業仮説の検証のため
- 調査対象の全体 / 部分
 - 悉皆調査(全数調査)
 - 標本調査 サンプルング

5/24/06

9

調査方法の決定

- 調査票調査
 - 集団の平均的特性の調査に優れる
 - 画一的、数量化が容易、統計分析に乗りやすい
- 質的調査
 - 個体の個別特性の調査に優れる
 - 非画一的、統計分析に乗りにくい
 - インタビュー
 - 参与観察
 - etc.

5/24/06

10

考えてみよう

- 前回の課題
 - NHKの受信料を支払わない世帯の割合が増加した。
という現象から、調査を考える。
- 問題意識
 - NHKの受信料の未払い・支払拒否は、何故これほど大きいのか。

5/24/06

11

考えてみよう(問題意識の明確化)

- 先行研究
 - 世論調査?
 - 参考文献 松田浩(2005)¹NHK 問われる公共放送、岩波新書
- 問題を把握する枠組(検証タイプ)
 - 経済的背景… 不景気、支払余力がない
 - 社会的背景… 不公平感
 - 心理的背景… メリットがないのに強制
- 関連する諸現象(発見タイプ)
 - 国民年金の保険料、国民健康保険の保険料の未払の増加
 - 税金(=義務)と異なり、加入は権利であるのに強制される

5/24/06

12